26PA-pm109

女子中高生の医療系理系進路選択を支援する取り組み「未来の医療を支えるのはあなた II」における ICT の活用

○岡田 みどり[1], 中村 裕子[1], 佐藤 梓[1], 岡谷 理恵子[1], 酒向 加菜子[1], 福井 由理子[1], 浦瀬 香子[1], 木下 順二[1], 松本 みどり[1], 山口 俊夫[1], 辻野 賢治[1], 八木 淳二[1], 加藤 秀人[1], 松岡 雅人[1], 蒋池 勇太[1], 高桑 雄一[1], 越野 一郎[1], 柴田 亮行[1], 加藤 陽一郎[1]（[1]東京女子医大医）

【目的】東京女子医大では、昨年度から「未来の医療を支えるのはあなた」と銘打ち、医療系の進路に興味を持つ女子中高生を対象に、色々な理系学部の研究が医療を支えていること、理系学部で学ぶことの楽しさ、卒後進路の多様性などを知ってもらうためのプログラムを実施している。この中で、大学の研究室で 2 日間かけて実験を行い、その学びの結果を iPad を用いて全員にプレゼンテーションするという企画を実施した。この取り組みにより、大学で研究の一端を実体験することの効果とともに、ICT を利用する教育効果について検証した。【方法】参加対象は中学 2 年生から高校 2 年生までの女子で、夏休み中の 2 日間で行った。６つの研究室から希望する研究室を選択させ、1 研究室あたり 5-6 名の配属とした。各研究室の特徴を活かし、中学生から高校生までが理解できる実験内容を各研究室が企画した。1 日目と 2 日目の午前中に実験と、その結果を検討してまとめるグループディスカッションを行い、全体発表に向けて iPad で発表資料を作成した。各研究室に 1-2 名の学生 TA が参加し、生徒の実験や発表のための支援を行なった。2 日目午後には、iPad と Apple TV を用い、Apple TV のミラーリング機能を利用して全体発表会を行なった。【結果】2 年間を通して 61 名の中高生が参加したが、約半数の生徒は iPad を使用した経験があり、操作に困難を感じた生徒は 1 割弱であった。約 9 割の生徒が実験は面白いと感じ、積極的に実験に取り組んでいた。また、発表を聞いて他のグループの実験の内容や方法に興味を持った生徒は 6 割に上り、自分で実験を行うとともに、iPad を用いて発表資料を作成すること、写真などの多彩な画像やデータを示しながら全体発表会を行なって共有することも教育効果が大きいことが示された。